

## 奥日光の歴史(1868年から現在)

明治時代(1868–1912)になると、印象的な自然と夏の涼しい気候が、外国人居住者や、日本への旅行者などを魅了し始めます。1872年春、イギリス人外交官のアーネスト・サトウ(1843–1929)が横浜から中禅寺湖へ旅行で訪れました。彼は「絵のような湖」と賞した中禅寺湖とこの地域に惚れ込み、別荘を建て、1875年、日本で初めての英語のガイドブックである、“日光のガイドブック”を書きました。イギリス人の作家で旅行家のイザベラ・バード(1831–1904)は、奥日光の温泉地帯、湯元温泉に深く興味を持ち、彼女の旅行記で紹介しました。当時日本でよく知られていたスコットランド人商人、トーマス・グラバー(1838–1911)は、湯川に米国産の川鱒を放流し、その後の奥日光のフライフィッシングの発展に貢献しました。この時代に奥日光は繁栄し、多くの外国大使館別荘が開発されました。その美しい景観と、ハイキング、ウォータースポーツ、スキーなどのアクティビティを通じて、(今も)多くの訪問者を惹きつけ続けています。